

2022年7月11日  
世界自動車調査月報編集長 安藤 久史

## 2021年部品売上高上位120社、M&A等が業績に影響、電動車関連が好調

謹啓、時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。  
平素より、当社の調査・出版業務にご協力頂き、誠にありがとうございます。

さて、当社では『FOURIN 世界自動車調査月報』2022年7月号(2022年7月10日発刊)にて、「2021年の部品メーカー売上高ランキング(上位120社)」をテーマとしたレポートを取りまとめましたので、ご案内申し上げます。

- 2021年売上高ランキングは首位 Bosch が 513 億ドル、2位デンソーが 399 億ドル、3位 ZF が 393 億ドル
- 需要が高まる電動車(PHEV/BEV)関連や半導体事業の業績が特に好調
- 2022年の注目ポイントは、長期化する半導体不足やサプライチェーン網の混乱、ロシアのウクライナ侵攻の影響

FOURIN が独自に世界主要サプライヤーの自動車部品事業売上高・損益をドル換算で集計したところ、2021年(度)はコロナ禍で悪化した前年に比べ全体的に業績が改善の傾向を示しました。需要が高まる PHEV/BEV 関連や半導体事業の業績が特に好調であった一方、半導体不足で一部の完成車メーカーが工場の稼働を一時停止した影響などがマイナス要因となった他、3月期決算が多い日系は、円安(対ドル相場:2021年3月=110円、2022年3月=122円)により、ドル換算時の業績が目減りする傾向にありました。売上高をみると、首位 Bosch が前年比 0.9%減の 513 億ドル、2位のデンソーが同 1.4%増の 399 億ドル、3位の ZF が同 8.1%増の 393 億ドルと、トップ3 は前年と順位に変動はありませんでした。一方、8位に BASF(前年:17位)、9位に CATL(寧徳時代新能源科技、同 34位)が入りました。

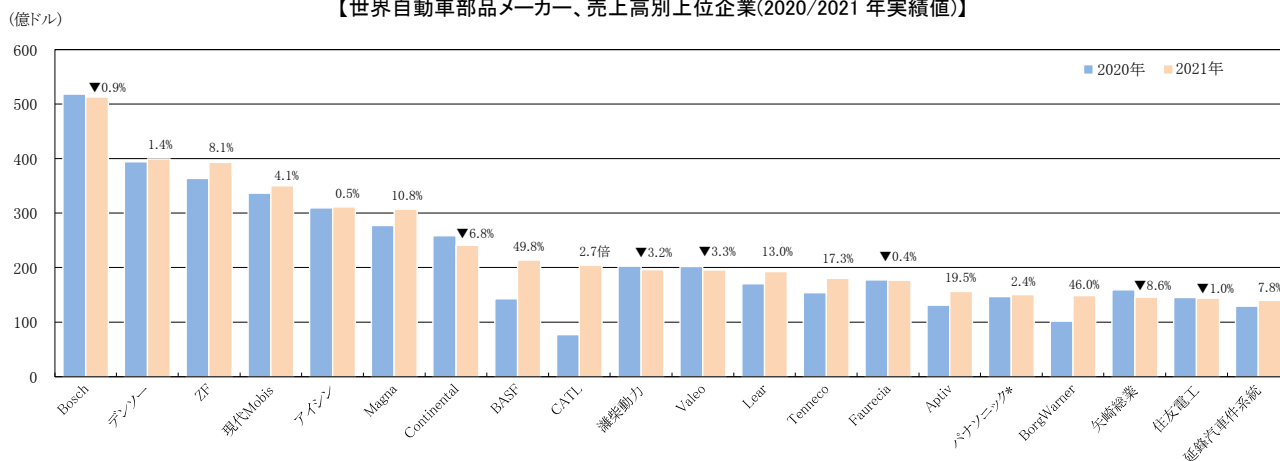
2022年(度)決算は、PHEV/BEV 関連や半導体事業の更なる収益拡大が見込まれるものの、長期化する半導体不足やサプライチェーン網の混乱、ロシアのウクライナ侵攻などによる不確定要素の拡大などを要因として、業績に大きな差が出ると考えられます。M&A 等により業界再編が進み、売上高順位が更に変化しやすくなる可能性もあります。

ご参考までに、『FOURIN 世界自動車調査月報』2022年7月号に掲載します表を下記に掲載いたしました。

当プレスリリース内容に関してのご不明な点やご質問は、『FOURIN 世界自動車調査月報』編集長の安藤(TEL:052-789-1143、FAX:052-789-0966、E-mail:h.ando@fourin.com)までご連絡ください。

敬 具

【世界自動車部品メーカー、売上高別上位企業(2020/2021年実績値)】



注)タイヤ、車両組立が売上の大半を占める企業は除外(Continental はタイヤ事業分の売上を、Magna International は車両組立分の売上を、それぞれ除外した)。自動車・二輪車の部品売上高を対象としたが、一部で一般産業向けを含む。Continental は 2021年9月にスピノフした Vitesco 分を含まない。決算月は各社異なる。\*パナソニックオートモーティブ。